

2013年8月2日 279号

# 共同センターNEWS

憲法改悪反対共同センター

文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX5842-5620)

http://www.kyodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

## 「手口学んだらどうか」 ナチス肯定発言 国内外から強い批判

麻生太郎副総理兼財務相は7月29日夜、都内で講演し、憲法改正をめぐる戦前ドイツのナチス政権時代に言及する中で「ワイマール憲法もいつの間にかナチス憲法に変わっていた。誰も気がつかないで変わった。あの手口、学んだらどうかね」と述べました。

米国のユダヤ人権団体「サイモン・ウィーゼンタル・センター」は、7月31日「どんな『手口』を学ぶ価値があるのか。麻生副総理は忘れたのか。ナチスによる支配で世界はあつという間に地獄と化し、人類は第2次大戦の恐怖に巻き込まれた」と批判し、副総理に真意を説明するよう求める声明を発表。また、韓国外務省や中国外務省も、日本の侵略戦争と植民地支配に関連付けて批判。海外メディアも「全人類を公然と挑発するもの」など強い調子で非難しました。

### 「真意と異なり誤解を招いた」と言い訳 麻生副総理

国内外からの批判が相次ぎ、8月1日、麻生氏は発言を「撤回したい」と談話を発表しました。コメントで、「真意と異なり誤解を招いた」と言い訳していますが、『「ナチスに学べ」と言ったことは間違いだった」とはしていません。憲法改悪の本音が出たのであり、自民党・安倍政権がねらう改憲が、非常に危険なものであることがいっそう浮き彫りになったと言えます。

### ナチズム肯定の許しがたい発言 共産党・志位和夫委員長

共産党・志位和夫委員長は1日、「ナチズム肯定の許しがたい発言であり、閣僚、日本の政治家としての資質がきびしく問われる問題」と批判。また、社民党・又市征治党首代行は31日、発言の撤回と閣僚・議員辞職を求める談話を発表しています。

一方、日本維新の会・橋下徹共同代表は1日午前、麻生氏の発言に関して「かなり行き過ぎた、ちょっと度のきついブラックジョークというところもあるのではないか」、さらに橋下氏は「憲法改正論議を心してやらなければいけないというのが（発言の）趣旨だったのではないか。（前後の文脈から）ナチスドイツを正当化した発言では決してない。国語力があれば、すぐ分かる」と麻生氏を擁護する発言をおこなっています。

## オスプレイ 12機の追加配備反対

### —憲法9条をいかして、平和の実現を—

日米両政府は、沖縄にMV オスプレイ 12機の追加配備を実施しようとしています。7月30日、そのMV オスプレイが米軍岩国基地に陸揚げされました。整備後、沖縄の普天間基地に追加配備される計画です。また、CV22 オスプレイ（空軍仕様機）を嘉手納基地とともに、横田基地に配置することを日米両政府で協議していると米太平洋空軍のカーライル司令官が明らかにしました。

### 雨の中、「追加配備抗議集会」に1200人参加

7月28日、「オスプレイ追加配備抗議市民大集会」が、雨天の中、岩国市役所前の公園で開催され、1200人が参加しました。主催は、愛宕山を守る会、岩国爆音訴訟の会、瀬戸内海の静かな環境を守る住民ネットワーク、住民投票の成果を生かす岩国市民の会、住民投票を力にする会の5団体。集会には日本平和委員会、安保破棄中央実行委員会、全労連、民医連などの中央団体も参加しました。

集会の初めに、瀬戸内海の静かな環境を守る住民ネットワークの桑原



清共同代表が、主催5団体を代表して、全国で危険な飛行訓練が展開されていることにふれ「配備を断固許さないたたかいを広げよう」とあいさつしました。次に、来賓として社会民主党と日本共産党があいさつしましたが、参院選で当選したばかりの日本共産党の仁比議員は、住宅上空で低空飛行しないなどとした「日米合意」が無視されているとして「配備を絶対許さない国民運動が必要。国会で先頭に立ってたたかいぬく」と決意を語りました。また、集会の終わりに「陸揚げが30日に予定されており、30日朝から抗議行動を行おう」と呼びかけが行われました。

集会後、市役所前から岩国駅前までパレードが行われ、沿道からは両手をあげて、「がんばれ」と声をかける方や、小さく手を振る学生などさまざまな応援がありました。

### 思いやり予算で、滑走路と港湾施設の建設など軍事機能の増強

米軍岩国基地の周辺は、新しい住宅が立ち並び、港も延長され岸壁が整備されています。水深13メートルの岸壁は、「航空機事故の危険や騒音の軽減」を口実に、日本政府の思いやり予算で総工事費2500億円をかけて建設されました。オスプレイを運ぶ大型車両運搬船グリーン・リッジも着岸できるように整備され、オスプレイの陸揚げ先としてうってつけの場所になっています。

### 全国で低空飛行訓練中止を求めるたたかい

沖縄に配備されたオスプレイはイエロー、グリーン等の飛行訓練ルートで低空飛行訓練が行われます。それに対する中止を求める運動も全国各地で展開されています。

秋田県平和委員会は、6月の地方議会に、ドクターヘリの安全運航と県民の安全・安心を守るため、F167やオスプレイの米軍機の低空飛行訓練中止を国に求めよう、秋田県と25市町村に陳情しました。結果、14市町村が採択、県議会と6市町が不採択、継続審議は5市町でした。

秋田県は1月23日から県民の救命向上を目的にドクターヘリ事業を開始しています。392カ所にヘリのランデブーポイント(場外離着陸場)を設け、年間163回の出動がありました。一方、米軍機の低空飛行ルートはピンクとグリーンルートが県上空にあります。秋田県平和委員会は、ドクターヘリと米軍機が遭遇すれば、救命の遅れや衝突の可能性があり、県民の命と直接結びつく問題だと指摘しました。

採択しなかった自治体には決議理由を聞き取りましたが、「防衛問題は国の専管事項」(八峯町・不採択)、「F16の飛行高度が不明、実態をもっと研究して」(能代市・継続審議)などの回答がありました。これらの結果をまとめ、秋田県平和委員会は記者会見を開き、知事の態度表明を求めるとともに、低空飛行問題が命や暮らしに関わる問題であることを県民へアピールします。

## //各地・団体のとりくみ//

### 映画人九条の会

## 降旗康男監督(映画人九条の会代表委員) 『少年H』を語る 8月10日から全国公開

映画人九条の会は2013夏のイベントとして、7月30日夜、東京・文京シビックセンターで「降旗康男監督、最新作『少年H』を語る!」という集いを行いました。映画「少年H」に込めた思い、戦争と憲法9条などについて語っていただきました。8月10日から全国公開される映画「少年H」は、映画人九条の会の代表委員でもある降旗康男監督の最新作です。

原作の「少年H」は妹尾河童さんの自伝的長編小説で、国民的大ベストセラーです。映画では、異国情緒あふれる神戸の街を舞台に、戦争という激流の渦に巻き込まれながらも、少年H一家が時流に流されることなく、勇気と信念、愛情をもって強くたくましく、生き抜く姿を描いています。

安倍政権が改憲をめざして暴走している今、絶好の企画だと思います。ぜひご覧ください。



**憲法を学び、生かし、平和な日本と世界を!**